

# 躍動

T GスポーツOB連合会報  
第 3 号  
平成22年10月1日発行  
企画広報委員会編集  
(躍動・本間良一会長書)



## 第 3 号 発行 によ せて

T GスポーツOB連合会 会長 本 間 良 一  
(昭和33年 文経卒)

先ずもって去る3月11日に発生した東日本大震災において被災されました方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

一方此度、新たにT GスポーツOB連合会会員となられた皆様ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

さて我々T GスポーツOB連合会は、かつて東北学院大学体育会に所属していた同窓生によって昭和47年に設立され現在47団体約15,000名の会員がおります。そして「東北学院スポーツの振興と発展のため物心両面の援助を図るとともに会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与する」ことを目的に活動しております。

皆さんご承知のことと思いますが我々会員の中には平成20年プロ野球日本シリーズでMVPを獲得した埼玉西武ライオンズの岸孝之投手、平成21年の第57回全日本剣道選手権で第3位になった高坂雄介選手、更にはこれまでの功績が認められ旭日双光賞を受賞されたヨット部OBの高橋順一氏、宮城県で2人しかいないと云う非常に難関である八段に昇段した剣道部OBの曾根孝悦氏の他空手の世界チャンピオン、柔道の世界マスターズ優勝者等優秀なOBが沢山居ります。

そんな中事務局としては、会員相互の更なる融和と団結を図るため平成20年T GスポーツOB連合会の旗を作成、平成21年にはかねてより懸案中の会報「躍動」を発行、そして平成22年は各部対抗ゴルフ大会を開催しました。

ゴルフ大会は昨年の第1回大会には105名参加、今年の第2回大会には未曾有の大災にもかかわらず85名参加、両大会共非常に盛会でした。

毎年総会では会員の皆様から「仙台大学、東北福祉大学に比べ東北学院大学の情報発信が少ない」「会報躍動についても内容が今一物足りない」等T Gスポーツの弱体化を憂う厳しい声が出ています。

我々T GスポーツOB連合会としてはこれらの貴重なご意見を参考にしながら今後共工夫、改良を重ねT Gスポーツの更なる活性化に繋げてまいりたいと思います。

会報「躍動」第3号発行にあたり皆様からの積極的なご意見、アドバイス、ご協力をお願い申し上げます。

# 江馬成夫先輩を偲ぶ

T GスポーツOB連合会 副会長 森 俊 博

(昭和58年 経商卒)

高橋富士男理事長からのメールでT GスポーツOB連合会名誉会長江馬成夫さんの訃報の連絡がありました。平成23年3月26日に亡くなられ、享年82歳でした。

江馬さんは昭和25年3月、東北学院専門学校経済科を卒業、山岳部で活躍された先輩でした。学校法人東北学院評議員・後援会理事・同窓会常置委員・山岳会会長・T GスポーツOB連合会名誉会長等の役職を通して、私たちを指導していただきました。

まさしく東北学院大学に対して「一燈を掲げた」方でした。

昭和44年頃から大学紛争が激しくなり、母校東北学院大学も同じように学生紛争が激しくなり校舎を占拠する学生たちが出現し、母校を守ろうと体育会OBの有志が立ち上がり徹夜で母校を警備いたしました。そのリーダーの一人が江馬さんでした。

その有志のOB方々で学生を応援しようと、昭和47年に発足したのがT G春秋会でした。大石栄一初代会長・江馬成夫幹事長、昭和50年岡大門二代目会長・江馬成夫幹事長と歩み平成5年に江馬成夫三代目会長となり、私が会長より指名を受け幹事長となりました。

以前からT G春秋会の名称では体育会OBの活動がわからないということから、他の大学の状態を調べ、江馬会長にご相談を申し上げ総会で以って名称を平成6年に「T GスポーツOB連合会」と名称の変更を致しました。

江馬会長は、次に体育会活動強化のために大学に対して推薦入学の推進を促しました。その後、平成17年の総会において江馬成夫名誉会長として、ご就任をいただき、本間良一四代目会長・仲島一雄副会長・栗野眞副会長・森俊博副会長・高橋富士男理事長の体制として現在に至っています。

江馬さんには堂々とした迫力がありました、まとめ役としてのバランス感覚のある先輩でもありました。また、後輩の私たちを信頼し包みこんで導いてくださいました。

伝統というものは生命の継承であって古いものの繰り返しではありません。それは伝統ではなく因習です。先輩に導いていただいた我々は新しい生命です。新しい生命はその時代に成長し闘って時代と共に進展してゆく力をもっています。伝統は日々新しい闘いを続けて、日々成長して行くものです。T GスポーツOB連合会のさらなる今後の発展と学生諸君の活躍を祈念して止みません。

私たちはT GスポーツOB連合会の総会ごとに毎年、江馬さんを思い出すことでしょう。

江馬成夫先輩ありがとうございました。

安らかに眠りください。



故 江馬成夫名誉会長  
(平成12年1月 仙台商工会議所インタビュー)

# 復興に、再生にがんばろう！

理事長 高 橋 富士男

(昭和45年 法卒)

## ○大震災からの復旧、復興

今回の大震災により柔道部のOB5名が犠牲となった。40歳代、50歳代が4名と一家の大黒柱を失なうこととなってしまった。中でも小学生の子供2人を残して奥さんともどもに亡くなった後輩もいてなんとも気の毒極まりない。

地震の翌日に職場である多賀城キャンパスに行ったが、礼拝堂に400名の方々が避難をしていた。その日から私も礼拝堂に泊まって多賀城市役所の職員さんとともにてんてこ舞いの対応が続くこととなるが、人生の縮図と言うかいい経験をさせていただいた。

最初のうちこそおとなしかった人たちも時間が経つにつれて不平不満を口に出すようになり、また犬を数匹連れてきては暖房器具の前を陣取ったりとわがままな御仁も現われるようになった。そんな中でなにより困ったことはトイレの問題であった。水は出ないし、当初は簡易トイレも到着しないことから体育館と図書館のトイレを開放したが、とてもそれでは対応できるものではない。山盛りの状態をバケツで流す作業は今回で最後の経験としたい。

それにしても津波の水が45号線を超えて多賀城キャンパスから500mのところまで来たことは驚きであった。

私は奥さんを亡くした柔道部同期が住む石巻市渡波まで4回ほど足を運んだ。最初のころは崩壊した家や瓦礫の山を目にして果たして復旧できるものだろうか、とも思いましたが、何回か行くうちに少しずつではあるが道路が整備され、また、行き交う警察車両や消防車両のナンバーが北海道から九州までにおよび全国からの応援体制に心強さを感じた。ちなみに、多賀城駅前に陸上自衛隊の部隊が大きな浴場を設置して市民に開放していたが、横断幕に首里城が書かれた沖縄の部隊であった。

今回の悲惨な状況のなかで感心したのは多くのボランティアの活動である。毎朝、出勤前に自転車で小鶴新田にある宮城野区体育館あたりを通ることを日課としているが、日曜日の朝早くから長靴、軍手姿、首にタオル姿で体育館前に集合する若者の姿に感心させられる。日本の若者もなかなかのもんだ、と思わせられた。東北学院大学でもボランティアステーションを立ち上げて被災地に赴いて活動していたが、青山学院大学からもボランティアの学生が大勢駆けつけてくれた。因みに彼ら、彼女らは自費で来ているとのことで更に感心させられた。柔道部の学生もボランティアとして活動してきたが各々いい経験となったようである。

今でも街のあちらこちらにがんばろう東北、の字を見ることができる。被災された方々にとってはつらい言葉であると思うが、今回の悲しみを共有しながら心の傷が癒える日がいつか来てくれることを祈るしかない。

## ○TGスポーツの再生

TGスポーツOB連合会の総会で、TGスポーツの弱体化をなんとかせい、と毎年のお叱りである。

我々指導する者にとって遅ればせながらもスポーツ推薦制度を導入されたことは大きな前進であった。し

かし、その後については残念ながらスポーツ強化に結びつくような策は講じられてきていない。スポーツ寮の建設や奨学金制度についても経営陣は全く無関心の様相である。さらには教授会なる組織が体育会の活動に対して理解があるとは思われない。このことは授業をさぼりながらも試験のあとに単位をもらいにいくような体育会学生にも責任がある。ジャージ姿であるから余計目だつことになる。この辺はコーチ、監督の指導も大事だと考える。

さて、日大や明治、法政などの古豪大学が次々にスポーツ強化策を打ち出してくる。関関同立の関西勢もスポーツ系学部を新設するなどスポーツの強化に向けて元気がある。

因みに日大の理事長、そして校友会長は相撲部監督の田中さんである。このような方がトップにいるの和我が方では根本の部分で違ってくる。数年前の同窓会総会で県外の支部長から、最近の報道を見ても東北福祉大や仙台大の名前ばかりで、母校東北学院大の名前が聞かれなくて寂しい思いをする、との発言がされた。ある教授と話をした。ウチの理事会のメンバーは教員が多くて世間を知らなさ過ぎる。東北学院は無借金で安泰、という間違った思考があり所詮は田舎大学なんだネ、と。

しかし、ここで大学に対して悪口ばかりを言っても仕方ない。強化には優秀な選手、熱心な指導者、練習環境、そして財源が必要となってくるが、一気にすべてを揃えることなど不可能である。

そこで可能性のある解決策として次のことを提案したい。部員の中から将来、熱心な指導者となりうる者を大学職員にすることである。受験してもむずかしい、と言う方もいるが優秀な学生を育てて受験させるくらいの工夫はほしい。決して不可能なことではない。

いま40を超える競技部の中で指導者が毎日指導している部はいくつあるだろうか。片手くらしかないと思うが、やはり学内にいる熱心な指導者がいるところに限定されよう。学外の方に報酬もなく土日関係なく指導しろ、ではあまりにも酷である。かつてのバスケット部の小藤監督さんやラグビー部の工藤監督さんあたりは毎日の指導であったが、これは別格で奥さんや会社にはかなりの迷惑をかけたと思う。加え、それなりの出し前もあったはずでその苦勞も容易に想像できる。

一つでも多くの部に学内の教職員が指導者として存在し、互いに切磋琢磨しながら少しずつ坂を登っていくことが再生につながることでないか。

最後に、各部OB会が「点」として存在するわけであるが、各OB会が連携を取り合い「線」とならないとTGスポーツOB連合会の「力」とならない。そのために会報の発行にも至ったし、これからもOB各位からの知恵と積極的は発言に期待をしたい。



バスケットボール部OGの相澤優子さん

## 東北学院大学体育会の誇りを胸に

アメリカンフットボール部 監督 鹿野 剛 司  
(平成8年 経経卒)

私は今春より体育会アメリカンフットボール部の監督を務めさせていただいております。

話を頂いた際、経験も知識も乏しい若輩者の私に何ができるのか、学生に何を伝えることができるのかを考え、眠れぬ日々が続きました。私なりの結論を導き出し、監督という責務を全うするにあたり1つだけ信念を持って取り組むことにしました。

それは『勝ちにこだわる』ことです。

『勝つ』為に一番大事なことは、選手たちが『勝ちたい』という強い『想い』を持つことだと思っています。

東北学院大学体育会アメリカンフットボール部の誇りと名誉の為、仲間の為、自尊心の為、支えてくださる方々の為、『想い』が強いほど目標が高くなり、やるべきことが明確になる。

『想い』があるから歯を食いしばって辛い練習に耐え、逃げ出したくなかった時、泣きたくなかった時『なにくそ』と思って正面からぶつかっていく。最後まであきらめずに力を振り絞り、慢心が入る隙の無いほどひたむきに取り組む姿勢、ピリピリとした緊張感の中での練習はここぞという時のプレッシャーに負けない強靱な精神の構築。全ては『勝つため』であり、そこには戦う前から負けた時の為の言い訳をしたり、仲良しチームのななあ主義的な練習を行う空気はありません。

強さを求めることから生まれる数々の問題・軋轍を、お互い腹を割って話し合い解決することで『目標』再確認し絆は更に深まる。同じ目標に向かい、切磋琢磨を繰り返してきた仲間との強い信頼関係、そしてゆるぎない自信。そこからチームの為自分の役割を全うする献身的で崇高なプレーは生まれるものだと思っています。

しかし人間ですから迷ったりつまずいたりすることがあります。その時に必要なのが我々コーチングスタッフだと思っています。傾聴し選手の自主性を尊重しながら方向性を指し示してあげたり、納得いくまで話し合い迷いから開放してあげることで練習に打ち込める環境づくりを行っていく役目を全うしていきたいと思っています。長い人生の中で大学生活の4年間は『あ』という間ですが、これほど人生に影響のある色濃い4年間は無いと思っています。

一つの目標に向かって真剣に取り組む、泣いて、笑って、苦しんで、喜びを分かち合った仲間は人生においての良き理解者でありその絆は永遠です。

多くの学生にこのような経験をして欲しいという『想い』を抱き、我々も真剣に学生と向き合っていきたいと思っています。

また、本当に多くの方々に支えられていることを改めて感じています。

6月に行われた青山学院大学との定期戦は、学内関係者の長期に渡る折衝により実現し、更には東北アメリカンフットボール連盟のご尽力により東北リーグでは震災後初のボウルゲームとしてユアテックスタジアムで行う事ができました。当日は数多くのOBの方々の応援及びご支援もあり大役を全うすることができたと思っています。

北海学園大学との定期戦では昨年北海道リーグ3位の同校に勝利することができ秋季リーグへの弾みとなりました。

学内関係者、体育会、OB会、父兄会、及び卒業生の多くの方々のサポートがあり、部活動に専念できる環境に感謝すると共に一生懸命勝利に向かって切磋琢磨し成長していく姿を見せられるよう日々練習に取り組んでいきたいと思っています。



## ゴルフ部

# 創部 50 年に向けて思う

東北学院大学体育会ゴルフ部OB会  
会長 小田桐 和久

2011.3.11 14:46に起きた東日本大震災、最初は家族そして同僚友人の安否と被害の確認、被害の甚大さが徐々に伝わるにつれ、つる不安と物資の不足。不便な生活と闘いながら今後いかに生き抜くかを真剣に考えさせられる結果となりました。

昨今の「競争」という価値観が過去のものとなり、「共生」という価値観の復活に心打たれる人々が増えているものと感じます。

そして、我々が学んだ東北学院建学の精神Life,Light,andLeveForTheWorldは、今まさに我々東北学院出身者の「心」のよりどころとして、今後歩むべき道しるべになると確信すると共にこのような時期だからこそ、我々は東北学院と言う絆の下に集まり、皆で助け合い励まし合い一致協力して明日をより良いものにして共に生きていかなければとの思いを強くしました。

先日8月7日に行われました◇震災復興チャリティ◇第2回TG・チーム対抗ゴルフ大会は、震災復興の大変な時期にも拘らず大変大勢の皆様に参加ご協力いただき、とても良い雰囲気のゴルフ大会を運営出来ました事、手伝わせて頂いたゴルフ部OB会会長としてこの場をお借りして、改めてスタッフの皆様、お世話になった皆様に深く感謝御礼申し上げます。

また、現在東北学院大学体育会ゴルフ部は創部50年を迎えるべく記念事業の準備を進めております。

ご周知のとおり東北学院大学体育会には創部90年を超える部があります、我々も伝統ある東北学院大学体育会の一員としてゴルフ部創部50年そして次の100年を迎える事が出来ます様しっかりと組織を構築し、次の世代に伝えていかなければならないと考えておりますので今後とも諸先輩方の御指導御協力をお願い申し上げます。

## サッカー部

# 青山学院との深い『絆』

サッカー部OB会事務局 佐藤 順  
(昭和45年 経商卒)



「東日本大震災」発生から早や半年が経ちました。9月3日(土)その日は台風12号が北上中ではありましたが、たいした影響もなく第32回対青山学院との「震災復興祈念ゴルフコンペ」を30名の参加をいただき、柴田郡川崎町「ミサワ杜の公園GC」に於いて開催されました。

終了後、場所を変え青葉区中央「伊達の牛たん本舗」に於いて、両校サッカー部OB・後援会のメンバー合わせて50名の参加のもと、ゴルフ大会の表彰式を兼ね懇親会を開催いたしました。本間良一東北学院大学サッカーOB会顧問(スポーツOB連合

会々長)からの挨拶に引き続き、青山学院大学OB会長の本橋淳さんからご挨拶をいただき、後に仙台同窓会副会長(サッカー部OB会後援会々長)峰岸良造様から歓迎の言葉が述べられ、そして青山学院大学サッカー部元部長の田所勝太郎先生から乾杯のご発声をいただき、賑やかな交流が行われました。

翌9月4日(日)好天のもと学院中学・高等学校のグラウンドをお借りし、第42回のOB戦が開催されまし

た。青山学院から20名からなるOBの方々が来仙され、我が東北学院のゲストとしてベガルタ仙台のチームドクター松本純さんや、初出場となる元ベガルタ仙台監督の鈴木武一さんにも参加いただき、往年のサッカースピリットを見せて貰い、お互い楽しい汗を流すことができました。

3月11日に発生した未曾有の震災で、本学卒業生1名が亡くられました。また、4名の卒業生の家屋、在学学生2名の実家が流失しました。

そんな中、いち早く支援の手を差し伸べてくれたのが、青山学院大学サッカー部OB会の面々でありました。熱い『絆』を覚え、只々感謝の念に耐えません。

1000年に1度とは云え、頂きました尊いお心遣いは生涯忘れることはできません。

後世（後輩）に、しかと伝えていきたいと思っております。 多謝

*“For the Unchanged Friendship and Burning  
Spirits of Football Forever . . . .”*



## 自転車競技部

## 今、OB会のできることに

自転車競技部OB会事務局 伊里山 豊  
(昭和54年 経経卒)

弱体化が叫ばれ久しいTG体育会、ご多分に漏れず我が自転車競技部も近年は成績不振が続いています。

創部40年とTG体育会の歴史からみると若い部ではありますが、自転車競技の盛んな地域、また練習環境に恵まれている等の利点もあり、創部間もない時期から全国大会で活躍する選手を輩出してきました。

インカレ総合3位2回、2位1回と、まさに総合優勝までも、もう少しで手の届くところまで来ていましたが、近況は総合成績どころか出場選手を確保することも難しくなっています。

そこでOB会としても、自分たちの原点ともいえるべき東北学院大学体育会自転車競技部の再生を図るべく、積極的に協力して行こうと考えています。

現在OB会員は134名ですが、だんだんと薄らいでくる帰属意識をもう一度思い起こしてもらいたく、学生の合宿所（輪心館）生活の様子、大会や練習風景などを載せた「輪心館便り」を不定期ではありますがOBに送付しています。全国各地にいるOBの横の繋がりを密にすることで、数多くのOBが大会の応援や練習の指導に来てくれるような環境作り、また、将来的には高校各地方大会の視察をお願いし、有望選手の勧誘や情報収集といったことも考えています。

また、自転車競技部は創部以来、練習環境を考え、部員全員が合宿所で共同生活送っていますが、昨年、大家さんの御厚意により老朽化した建物を建て替えて頂きました。設計段階から多くの意見を取り入れてもらい、現在、OB会を中心とした輪心館運営委員会が、その管理、運営にあたっています。学生はとても良い環境の下で生活していますが、益々充実した環境を整えるためには、OB会としても協力を惜しまないつもりです。

東北学院大学体育会の為にも、TGスポーツOB連合会の益々の発展を願うところです

## 柔道部

## 前 へ

柔道部南六会（OB会）会長 豊 嶋 良 一  
（昭和54経経卒）

この様な社会状況の中、T GスポーツOB連合会会報の発刊、ご苦労様でございます。また、連合会会員の皆様に於かれましてはご健勝のこととご推察申し上げます。

そして平成23年3月11日の東日本大震災にて被災された皆様に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。柔道部OB会会員においても5名が亡くなり、一家5人が命を落とした先輩家族、小学校低学年の子供2人を残して亡くなった後輩夫婦、いたたまれない気持ちで言葉に詰ります。その他関係者にいたっては未だに把握しきれておりません。現役生においても自宅の流失等を含め、相当の被害を受け今後の生活の目処がたたない家庭もあると聞いております。そのような中、OB会ではすぐに義援金を募り、さらには青山学院大学柔道部さんを始め各方面からも御支援金を頂き、亡くなられた方々には弔慰金としてお盆中にご仏前に手向ける事ができました。また、現役学生にも御見舞金として役立てて頂きました。今回ご支援を頂いた皆様それぞれが何らかの被災を被ったにもかかわらず、温かいご高配を頂いた事に心より感謝を申し上げます。

3月11日の大震災以降、全ての営みが悲劇の連鎖を生み、政治経済にまで浸透してきています。予測のつかない自然がなす事とはいえ、一瞬で2万人の生命を奪ったことが今でもって信じられません。

私もボランティア等を兼ね、幾度となく被災現場に入っておりますが半年過ぎた今、震災直後とは違った意味の色々な感情がこみ上げてきています。少しでも早く普通の生活環境に戻る事を切望する毎日です。

柔道部の活動としては、3月の行事こそ中止としたものの、その他は何とか稽古と試合をこなし、5月に行われる予定だった青学定期戦を8月末に終えたところです。今は日々前を向いて稽古に励んでおります。東北学院大学柔道部はもうすぐ創部100年（大正8年、1919年）になります。各、世代世代で色々な困難と立ち向かい、克服、紡いできた歴史に誇りを持ち絶対に凋落することなく皆様と共に学院魂で踏ん張っていきたいと思います。



## 水泳部

## 会報発行に寄せて

水泳部OB会 石 田 伸 彦  
（平成6年教人卒）

我々体育会水泳部は昭和2年の創部以来80年以上の歴史の中で、数多くの選手・指導者を輩出して参りました。特に最近では、日本学生選手権（インカレ）や国民体育大会等での活躍する選手も出始めると同時に、本学を卒業して指導者となったOB達が育てた選手達が全国大会で優勝、あるいは入賞をする活躍も多数あり、水泳界の発展に貢献しております。

今現在では泉キャンパスに立派な50mプールがありますが、それ以前は当時工学部にあったプールを、更にそれ以前は県内の高校や大学、自衛隊のプールを借用して練習しておりました。また昨今は冬場でも変わらずに水中トレーニングをするのが当たり前の時代ですので、現在も現役学生は、年間通してのトレーニングのため泉区にあるセントラルフィットネスクラブ泉のプールを早朝に借用して練習しており、昔も今も



「ジブシー」なトレーニング環境には変わりありません。

今年は3月の東日本大震災の影響により、水泳界をとりまく環境も大きな影響を受けました。県内多くのプールが被災し、各チームとも練習場所の確保に苦労をしました。我がチームも同様、1ヵ月半の間プールに入ることができませんでした。これは水泳選手にとって、「水の感覚を失う」という致命的なことです。そのような状況の中で、今年これまでの戦績を振り返りますと、7月下旬に行われた「北部学生選手権」では、男女それぞれが総合優勝で男子は4連覇、女子は3連覇を果たしたものの、記録的には非常に物足りない結果となってしまいました。

今後は、オリンピックや世界水泳での日本選手の活躍で、水泳競技に注目が集まりつつある中で、本学水泳部も時代の波に乗れるよう、努力していきたいと思っております。そして「記録」だけにとらわれるのではなく、「体育会」としての豊かな人間形成にもつながっていければと思っております。

最後に東北学院大学T GスポーツOB連合会が、今後ますます発展していくことを望みます。

## ハンド ボール部

## ご挨拶

ハンドボール部OB会 会長 仲嶋 一雄  
(昭和41年文経卒)

東日本大震災に被災されたOB・現役の及びご家族の方々に、心からお見舞い申し上げます。

学院大学も甚大な被害を受けました。泉・多賀城体育館も被災し、6月一杯使えませんので高校に出向いで練習しております。

今年も東北ナンバーワンを目指していますが、震災の影響は免れず勝てるチームづくりは春の時点では実現はしていません。練習環境が整って行けばもう少し勝てる学院になりますので期待して温かく見守ってください。

前年度までの監督の小西和男さんが諸般の事情により辞任し、佐藤亮介監督に代わりましたので報告いたします。

青森中央高校出身の若い監督です。秋のインカレ予選に向けて強化をしっかりと頂いて常勝学院を実現してもらいたいと思っております。

今年も半年過ぎました早いものです、皆々様どうぞ健康に留意されお過ごしされますよう祈念しております。



## ポジティブなスポーツをやろう

ハンドボール部OB会 幹事長 大場 敏郎  
(昭和48年経経卒)

3月11日の大震災で被災された皆様に対して、心よりお見舞い申し上げます。緒先輩方、現役諸君の中にも家屋や車が流されたと聞いております。1日も早く、前の生活に戻れる事を、お祈り申し上げます。

さて、OB会に携わって30年数年がたちました。多くの学生を見てきましたが、一貫して言えることは、学院ハンドをする目的が曖昧ではないかという事です。この4年間【順調行けば卒業できるかも】、学業は勿論ですがハンドもしたい、同時進行させなければなりません。悩むことも結構ですが、自分自身も含め、周囲の人を上手く利用することを薦めます。苦手だと最初から思う人は、卒業後必ず苦勞します。人付き合

いの（いろは）を、在学中に是非身に付けて下さい。多少のお金はかかります。自己投資と思えば、乗り越えられるでしょう。

まず、クラスの友人、そして、ハンドの仲間と（飛躍に向けてのコミュニケーション）をしっかりと取って、試合時は言うまでもなく、練習時も精力的に行動することで4す。卒業後は、みんなバラバラになります。その後は、自分自身で永い人生を歩まなければなりません。親もいずれ、いなくなります。他人に構っている時間はありません。あっという間に4年間は過ぎます。今のうちに、甘い考えを捨てて、自立への道を切り開いてください。期待しています。

## 第8回TGジュニアカップの開催

宮城県中学校男子ハンドボール競技の普及とレベルアップを目指した「第8回TGジュニアカップ」を2月5日（土）、6日（日）の両日東北学院大学泉キャンパス体育館において開催しました。

参加8チームにより燃えるような熱い戦いが展開されましたが内容は以下のとおりです。

第1試合～七北田中と成田中が対戦、両チームとも慎重に競りあいましたが、中盤から成田中のミスを見逃さず得点した七北田中が差を広げ24対14で勝利しました。

第2試合～高砂中対田子中、開始から一方的な試合運びになり連続速攻で得点を重ね26対6の大差で高砂中が勝ち上がりました。

第3試合～は昨年の優勝校五橋中が東仙台中を後半一気に得点し24対15と突き放しました。

第4試合～仙台中田中対柳生中、ロスコアで試合が進み手堅く守りきった中田中が15対8で勝利しました。

準決勝～第1試合の七北田中対高砂中は前半立ち上がり互角に点の取り合いで9対6と折り返し、後半はGKとディフェンスが連動して来た七北田中がサイド攻撃で得点して21対13で決勝戦に駒を進めました。

第2試合～仙台中田中はミスを連発した五橋中を28対8と予想外の差で撃破し、歯車が狂い自滅した五橋中は最後まで実力発揮できずに敗退。

3位決定戦～高砂中対五橋中は高砂中がサイドシュートとポストシュートで終始リードして五橋中もミドル応戦したが得点差は縮まらず22対14で高砂中が勝ち3位となりました。

決勝戦～七北田中と仙台中田中が対戦。七北田中が優位と思われていて、いかに中田中が先手を取って競っていくかが注目されました。七北中は二人のサウスポー3番齊藤選手のサイドシュートと4番今野選手のミドルシュートが決まり前半は12対7リード。後半も速攻で確実にシュートを決め24対12と七北田中完勝で初優勝です。パスミスやシュートミスしたチームは勝てません。しかしミスを無くして行けば逆に勝てる強いチームになります。参加チームは直ちに練習の中にハンドボールの基本である走りのスピードと正確なパス、得点になるシュートの確実性を身に着ければ、どこの中学でも素晴らしいチームになる可能性が充分あります。

昨年七北中は1年生だけのチームで出場して、一回戦で敗れた経験が今大会の優勝に結びつきました。本当におめでとうございませう。

今回出場選手の中から日の丸をつけたオリンピック選手が出て来ることもTGカップの大きな夢です。近い将来日本を代表する選手が出て来る事を期待しています。



## 第62回対青山学院大学定期戦に勝利！

フェンシング部OB・OG会「つるぎ会」事務局 工藤 健二  
(昭和47年経経卒)



相澤挨拶の佐藤彰一OB会長

東北大震災の影響で開催が遅れていた第62回対青山学院大学定期戦は、平成23年9月3日（土）土樋キャンパス体育館に於いて開催された。

試合に先立ち行われた開会式では、東北学院大学側を代表して「つるぎ会」会長佐藤彰一氏（S45卒）から、歓迎と相互の健闘をとおとしての交流の意義についてお話をいただいた。

次に、青山学院大学側を代表して、OB会長の栗原氏（S36卒）から、今回の被災に対するお見舞いと歴史ある定期戦開催への祝辞を頂戴した。

今回の参加人数は、本学は6名（4年生3名・3年生1名・2年生1名・1年生1名）と頼藤監督・今野コーチが参加。

また、青山学院大学は、部員27名のうち15名（4年生5名・3年生2名・2年生8名）が来仙。引率者として佐藤監督（S46卒）をお迎えした。

大型の台風12号が接近し、風雨がめまぐるしく変わる蒸



開会式

し暑い中、熱戦が繰り広げられた。

試合は、リレー方式により進行され、種目別では、[フルール] 本学45対青山21・[サーブル] 本学45対青山33・[エペ] 本学45対青山40となり、総合結果は、本学3対青山0で本学の勝利となった。

戦い済んで、夕刻から場所を「国分町」に移して盛大な懇親会が開催された。（ひと昔前は、この全体懇親会后、二次会・三次会と行われる学年別懇親会もまた、定期戦の良き思い出として、両校に語り継がれていたのだから・・・）

今回もまた、両校の開催に対する熱い想いを、さらに確かめ合った定期戦となった。



フルール試合模様



応援にも力が入る



円陣を組んで

## 一発会のこと

ボート部 監督 成澤 礼義  
(昭45年経商卒)

ボート部のOB会は、「仙台艇友会」と称し組織されています。

OB会内の創部一期生（昭和45年卒）の集まり「一発会」を紹介させていただきます。

ボートの練習メニューで、ロング漕を行うとき開始前に「野蒜まで一発」とか「桂島一発」とかコックスが伝達するわけですが、その「一発」が一発会のマジメな「いわれ」であります。

〔一発ロングは、超長距離を休まず漕ぐかなりハードな練習である為年に一回くらいしかやりません〕

一発会の結成は「河北レガッタ」の開催がきっかけです。本格的ボート競技会にして東日本地域のボート競技の普及・振興を目的として平成4年から実施されており、宮城県迫町の長沼漕艇場（国際A級コース）で開催されます。今では朝日レガッタ・中日本レガッタと並び三大レガッタといわれます。

一発会は、1968年の全日本選手権に出場した一期生が1995年のOB会で顔を合わせた際「一発やってみか」と盛り上がり一気に出場を決め結成したのであります。負けるのがいやだからと2月ごろから都合のつく週末北上川艇庫に集まりトレーニングを積んでのぞんだのです。当時クルーの平均年齢は50歳で出場種目は、壮年ナックルフォア（35歳以上）です。

結果は、初出場・初優勝・金メダルでした。

一発勝負のつもりが以来ヤミツキになり昨年まで15年連続出場・戦績は、優勝4回・準優勝7回・4着1回・中止3回で銅メダルはありません。毎年メンバーの編成が大変で結成当時メンバーの大半がサラリーマンであり転勤あり転職ありまた年齢的・体力的な問題もついて回りいつもレーススタート前は審判から「体に気をつけて、無理しないで漕いでください」と気を使ってもらう始末。しかし「トレーニングはうそはつかない」は、われわれの信条、シーズン前からメンバーはそれぞれランニング・ジムワークなどでからだづくりは怠らないのはボートマンとしての心得「オアズマンシップ」は健在です。またこれが後輩諸君への目に見えない叱咤でもあります。

それから、我々の一番大事なこと“祝勝会”も最高ですが練習・試合後の反省会・打ち上げは盛大に〔大宴会〕がモットーでこれが無ければ続きません“継続は、力なり”であります。

メンバーは、監督・杉船、漕手・鈴木（和）・鈴木（俊）・千田・成澤、補漕・伊東・大場・八木です。

ことは、5月に全日本マスターズ選手権・6月に河北レガッタの出漕を予定していましたが東日本大震災のため中止となり活動は休止しています。

来年は、65歳・全日本マスターズ・河北レガッタでの優勝めざしてがんばりたいとおもいます。応援よろしくお願いします。



## 備えあれば憂いなし

＜東日本大震災の我が家＞

陸上競技部OB会 会長 鈴木 浩  
(昭和37年文経卒)

3・11の震災で被災されたOB諸兄の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

さて30余年前に宮城県沖地震を経験した私は数年前から、宮城県沖地震から30年も経つので、そろそろ地震が来るのではと思います、少し備えをと考え下記を準備しました。

手前味噌ではありますが、少しでもご参考になればと思い一筆啓上の次第。まず宮城県沖地震の時一番困った事は水洗トイレの水でした、今回も皆さんは一番苦労のことだったと思います。30余年前の宮城県沖地震の時は地震の翌日雨が降ったので、雨水を大カメに溜め、何とかしのぐことが出来ました。この時の雨水の貯水を参考に4年前ニッカウキスキーの空き樽(200L)と大の漬物ダル(100L)を購入、手作りの雨水貯水タンクを作りました。

今回は地震後数日降雪があり、屋根に積もった雪が程よく融け、良い具合に貯水が出来、水道復旧までの8日間ご近所にもお分けすることが出来大活躍でした。(常には植木の散水に活躍)飲料水は1.8Lのペットボトルに約60本常時用意。



天水桶

＜ペットボトルの水は約一週間で入れ替え・水は植木や洗い水に＞

食料保存は常温で貯蔵出来る真空の瓶詰めを作りました(圧力鍋で作る・1年は常温で保存OK)

＜この圧力鍋での真空保存瓶の作り方は、今は亡き黒澤直次郎先生より伝授＞

おかげさまで給水や買い物には一度も並ぶことなく5人家族が過ごせました。尚、水道は地震後約1～2時間は管の破損がなければ給水が出来ます。



真空保存瓶

この1～2時間で風呂桶・バケツ・鍋などに貯水すると良いです。

おかげさまで我が家は一部損壊程度の被災で済みましたが、もう3・11の様な地震は来ないだろうと思いつつ、もう少しの間“備え”をと思っております。

余震も多発の折“皆様も備えあれば憂いなし”の心構え如何!!

# 元体育会長、大江善男先生を偲んで

理事長（柔道部師範） 高 橋 富士男

元体育会長であり東北学院大学名誉教授でもある大江先生が本年3月19日に逝去された。大学に訃報が知らされたのが4月に入ってからのことで、ご家族で葬儀を済ませました、との連絡であった。体育会長やその他の役職にも就いた先生なので葬儀も盛大にしてほしかったとの個人的な思いもあるがご家族の方針であるので致し方ない。

私が柔道部の監督時代に大江先生は柔道部長であったので柔道つながりでの拙文となりますことご容赦ください。

大江先生は大学学監も務められた阿部欣二先生の後任として第5代の柔道部長に就いた。それは平成元年（1989）のことで柔道部創部70周年の記念すべき年でもあった。それから約10年にわたり柔道部員の面倒を見ていただいた。特に学業面において心配をしていただき、先生の救いにより進級できたり、また卒業できた部員もいたようだ。

私が大江先生を思うとき、一番の印象はとにかく勉強家で物知りであったということである。柔道部のフランス遠征にも同行をいただいたが、フランス、ベルギーと回った時などは現地ガイドさん顔負けの詳しい説明には驚いた。専門が西洋史であるので頷けないこともないが、それにしても博識であった。

ご自宅にも時折おじゃまをさせていただいた。コンクリートで造られたご自宅はその本の重さに耐えるためのものであろうかと推測されたが、それほど多く本が一階部分の書庫に収められていて、ほんとうに勉強が好きなんだろうと感心させられた。

一昨年の柔道部創部90周年記念式典の際に体調が優れないとのことで欠席されたので、その感謝状を持参して後日におじゃまをした。その時は体調もよく、その一階の書庫室の応接セットに座りながらいろいろな話をさせてもらったが、奥様は、今日は調子がいいけど、あまり優れない日もあるんです、と言って心配をされていた。

帰り際に、この本を持って行って、とスポーツ関連の本を4冊ほど頂戴してきたが、その時が大江先生とお会いした最後となってしまった。

大江先生は日本酒が好きだった。若いころは知らないが羽目をはずすこともなかった。また、カラオケもうまかった。学問ガチガチの先生でなかったので一緒にいても疲れなかった。

また、言葉の表現もおもしろい先生であった。「富士男さん、暴力はなんにも手や足を使うだけでなく、ペロで相手を往復ビンタするような人もいるからね」と言っていたが、なんとも云い得ていて感心させられた。

ご自宅におじゃますると和服姿のほうが多かったが、恰幅もいいし古武士然として実に似合っていた。享年86歳。お疲れさまでした。ただただご冥福をお祈りするばかりである。合掌。

略歴 昭和2年1月2日 現、栗原市生まれ  
昭和42年4月 東北学院大学文学部講師～助教授～教授  
平成6年3月 東北学院大学定年退職～名誉教授

役職 文学部史学科主任 昭和56年4月～平成元年3月  
体育会長 昭和56年4月～平成2年3月  
柔道部長 平成元年4月～平成10年3月

### 第1回ゲスト 相澤優子さん・バスケットボール部OG 平成14年経済学部商学科卒業

相澤さん、今日はお忙しいところ時間を取っていただきありがとうございます。TGスポーツOB連合会は3年前から会報「躍動」を発行しておりますが、今年発行の第3号の新企画としてインタビューコーナーを設けることとしました。そして、その第1号として女子バスケットでご活躍の相澤さんにご登場をいただくこととなりました。どうぞよろしくお願ひします。

Q: 先ずは早速ですがバスケットを始めたのはいつ頃からですか。

A: 小学校4年から始めました。

Q: その後に聖和学園高校で活躍をし、実業団の名門シャンソン化粧品に進み、そこでも活躍していました。現役選手でありながら本学に入学したというのはどのような思いからですか。

A: ずっとバスケットに携わっていきたくて思っていました。指導者になるという目的から大学進学を決め、さらに、それまでバスケットボール一筋で過ごしてきましたので一般教養も学びたいという思いから東北学院大を志望しました。

Q: 大学生活はどうでしたか。

A: 最初は経済学部経済学科二部に入学し、3年次で経済学部商学科に転部転科しました。転部試験を受けるのに、勉強は本当に大変でした。

夜学の1、2年は一日3時間の授業だったので履修科目が少なかつたし、ようやく転部して3年になってからも、卒業単位取得に加え、教職の単位を取るのに1日5、6科目の授業を受けていて、一日中大学にいたような気がします。

大学入学時点で同級生とは6歳離れていましたが、バスケ部員のみんなどはすぐ打ち解けて、バスケはもちろん、練習以外でもたくさん遊んだりもしましたし結構楽しい学生生活を送ることができました。

先輩たちと共にプレーすることが多くなる中、指導しながらプレーすることが多くなり、アドバイスで先輩のプレーがうまくいった事に喜びを覚え、指導する側に魅力を感じました。

Q: 大学では本学初のインカレ3位入賞の原動力となりましたが、部活のほうはいかかでしたか。苦勞したことや嬉しかったこともあったと思いますが。

A: やはり昼の学科に移り、練習内容が充実できたというのが大きい要因でした。一緒に練習する時間が増えたことで、話す機会も増えたし一体感も生まれました。

最初は、アドバイスするのに身体だけではなく言葉でうまく伝えることができず、言い方を変えたり例えを変えたりしながら試行錯誤しました。

そしてまた、他の大学とは異なり、2時間という限られた時間の中で強化しなければいけない環境で、いかに集中して取り組むかということ自らの身体で表現することを常に意識しました。

インカレ決勝リーグ前、チームメイトから、「りず





さん（コートネーム）の助けになるとは言えないし、自分はやれることは少ないけれど、できることを一生懸命がんばります。」と 言われた時には、本当に感動しました。

そして、実際に、正直身体能力は決して高くはないその選手が、力の限りリバウンドに何度も飛びついている姿を見て、しっかりしなきゃと自分の方が鼓舞されたのを覚えています。

同じことを目指すチームメイトと、そんな風につながるスポーツって本当に素晴らしいと、学院大学で改めて実感することができました。

Q: 北京ユニバの主将を務めるなどして全日本の中心で活躍してきましたが、その継続の原動力はなんでしょうか。

A: 大きなケガがなかったこともありますが、やはり好きだからでしょうね。ありきたりではあるけれど、好きでなければこんなに続けられなかったと思います。

そして、何より、たくさんの方々のサポートのお蔭です。自分一人の力ではきっと継続してこれなかったと思います。

Q: これからの目標をお聞かせください。できれば東北学院大で教鞭を取ってみたいとの勝手な希望も持っていますが。

A: 将来、東北のチームを指導したいとの思いはあります。

今は愛知県に住んでいますので、急の実現は難しいかもしれませんが、いつかは実現したい目標です。東北の選手が「バスケットをするならここに入りたい！」って思われるようなチームを東北で作ることが夢です。

Q: 今の学生への注文はありませんか

A: 自分自身も大学生の時に意識していたことなのですが、2時間程度の練習時間を充実したものとするためには、練習で自分のマックスを常に出して練習しているのかが大きな鍵になると思います。

2時間を全力で走り続けることは不可能ですが、その練習時間の中でいかに自分の集中力を保てるか、すべての力を発揮できるかが勝利には不可欠なことと思います。

練習に今日の全てをぶつけられない選手が、重要な試合で何かを得るのは不可能でしょう。

練習で全力を出しても、試合で100%発揮することは難しいのに・・・です。

また、それに加え、自分の身体に目を向けてもらえたらと思います。選手生活を続けるためにもケガは大きな成長への妨げとなります。普段から自分の身体の変化を意識することが必要だと思います。

Q: ところで長い間を一線級の選手であったわけですが縁起を担いだりしますか。

A: あまり担ぎませんね。

ただ、爪の切り方は本当に慎重でした。ちょっとの長さの違いで、爪のボールへの引っかかり方が大きく異なってくるので、大勝負の前は特に神経を遣いました。

Q: 言いにくいとは思いますが、自分を誉めるとすればどんなところですか。

A: ひとつの事を長い間続けてきたことでしょうか。

Q: 男子にはプロがありますが、女子にはプロはできませんか。





A: いまでも実質プロのような生活の選手はいますが、女子のプロチームの誕生となると越えなければいけないことは多いような気がします。会社ごとにチームの在り方や方針が違いますし、早急な実現というのは難しいと考えています。

Q: いまの生活は、どのように過ごされていますか。

A: クリニックなどを定期的に行いながら、現在もバスケットを勉強し続けています。

Q: 最後になりますが、母校に対する期待、注文をお願いします。

A: 東北の高校生たちが「東北学院大でプレーをしたい」と思ってくれるようなチームを目指していただきたいです。

そして、一つ一つのプレーを大切にしながらも、愉しそうにプレーするチームであってほしいです。陰ながら応援しています。頑張ってください。



## ●相澤優子さんのプロフィール

### <経歴>

宮城県利府町に生まれる。

聖和学園高校（1992～1995）～シャンソン化粧品（1995～1998）

1998東北学院大学入学（2000,2001インカレベスト4、  
国体優勝、ユニバ代表）

2002東北学院大学卒業～富士通レッドウエーブ（2002～2004）

日本女子体育大学大学院入学

2004シャンソン（2004～2010）

2006日本女子体育大学大学院修了

2008北京オリンピック世界最終予選日本代表主将

2010現役引退～シャンソンヘッドコーチ

### <受章歴>

2011インカレ優秀選手賞、3ポイント王

2003,2004 Wリーグベスト5

2004全日本総合バスケットボール選手権大会ベスト5

2004,2005 Wリーグベスト5（ガードフォワードとして選出）

T GスポーツOB連合会勲功賞

304号 55国体成年女子準優勝

317号 56国体成年女子優勝

380号 82回全日本女子総合選手権シャンソン準優勝



## OB会の近況（昨年10月から現在まで）

### 剣道部

- ・後援会総会（平成23年10月29日 ホテルメトロポリタン）

- ・昨年からの指導スタッフとなった。

師 範 曾根 孝悦

（昭和46経経卒・本学剣道部初の  
剣道八段昇段者）

監 督 新村 浩志

（仙台矯正管区武道教官、鹿児島  
県出身、中央大学卒）

女子監督 渡辺 美紀（平成16年卒・会社員）

コーチ 佐藤 啓

（昭和63年卒・警察官）

澤田 裕和（平成10年卒・警察官）

澤田 晃（平成12年卒・警察官）

遠藤 稔正（平成13年卒・警察官）

関内 弘樹（平成14年卒・刑務官）

澤村 周司（平成15年卒・警察官）

志田 和謙（平成17年卒・刑務官）

早坂優美子（平成20年卒・会社員）

訃報（敬称略）

遠藤 哲（昭和40文経卒・平成22年）

新田 益通（昭和52経商卒・平成22年）

白木 博之（昭和57経経卒・平成23年）

### 硬式野球部

- ・OB会総会（平成24年1月21日 ホテルメトロポリタン）

他の事業は大震災のため自粛中。

### ゴルフ部

- ・OB会総会（平成23年9月7日）

OB会長の小田桐和久（昭和49法法卒）が仙台放送報道局長として震災後の各TV報道等で活躍。

### サッカー部

- ・OB総会及び懇親会

（平成23年3月26日 青葉区一番町「梟」）

- ・第32回対青山学院OB親善ゴルフコンペ（23年9月3日 ミサワ杜の公園）

- ・第42回対青山学院OB定期懇親会（9月3日 伊達の牛たん）

- ・第42回対青山学院OBサッカー定期戦（9月4日 小鶴キャンパス）

### 自転車競技部

- ・新合宿所 父兄、OB見学会（平成22年12月11日）

- ・新入生入寮式（平成23年3月6日 合宿所）

- ・東日本大震災被災OBへの義援金募集（平成23年4月～）

- ・OB会総会、懇親会（平成23年6月18日）

### 柔道部（南六会）

- ・南六会役員会（平成23年6月10日 土樋8号館会議室）

- ・柔道部後援会事務局会議（平成23年6月13日 仙台ガーデンパレス）

- ・南六会総会（平成23年6月17日 ホテル白萩）

- ・柔道部後援会総会（平成23年6月17日 ホテル白萩）

- ・オールTG柔道交流会（学生、OB、保護者）

- ・東日本大震災OBへのお見舞い金募集（～8月末日）

- ・警視庁OBの大石慎二（昭和34文経卒）春の叙勲を授賞。

- ・柔道部員全員が被災地に赴いてボランティア活動に参加。

訃報（敬称略）

松崎 寛（昭和42経経卒・平成23年4月17日）

伊東 祥一（昭和47経経卒・平成23年6月4日）

### 準硬式野球部

- ・少年野球教室（平成22年10月30日 笠神野球場）

- ・OB会総会（平成22年11月27日 ○△□）

- ・高谷弘樹（平成22年卒）宮城県野球団体競技会優秀選手賞を受賞。

### 卓球部

- ・OB会主催・第50回記念菊田杯卓球大会（平成24年3月）

### 軟式野球部

- ・OB会総会（平成22年12月）

### ハンドボール部

- ・監督の交代  
前監督 小西 和男  
新監督 佐藤 雄亮

### バドミントン部

- ・今回の震災で部員全員がボランティア活動に参加。うち1名は1ヶ月間のボランティアリーダーを務め奮闘。

### ボート部（仙台艇友会）

- ・仙台艇友会総会（平成22年2月26日カーリーナ）部の創設時から長年にわたり監督を務めた増田量吉氏が退任。  
前監督 増田 量吉（昭和42文経卒）  
新監督 成沢 礼義（昭和45経商卒）

### ボクシング部

- ・OB会総会（平成23年11月開催予定）鈴木 一（平成元年卒）航空自衛隊通信監査隊長に就任。

### ヨット部

- ・OB会総会（平成23年7月23日 法華クラブ仙台）

### ライフル射撃部

- ・北海学園大学OB戦

### ラグビー部（TGラガークラブ）

- ・新入生歓迎会（平成23年9月4日 サッポロビール仙台ビール園）
  - ・TGラガークラブゴルフコンペ（9月17日 仙台カントリー倶楽部）
- 訃報（敬称略）  
高橋 良夫（昭和26年卒・平成22年12月29日）

### レスリング部

- ・大震災によりすべてのOB会活動を自粛

## 今年3月の卒業生進路

### 空手道部

(株)シェアリー

### 剣道部

宮城刑務所、東北学院大学職員、各民間企業

### 硬式野球部

七十七銀行、仙台銀行、(株)バイタルネット、シバティンテックなど

### ゴルフ部

SRIスポーツ(株)（旧ダンロップスポーツ）など

### サッカー部

警視庁、福島総合警備保障、黒川郡消防本部、(株)アクティオ、アークランドサカモト(株)、(株)柴田インテック、(株)阿部長商店、仙台市消防局、フヨー(株)

### 自転車競技部

(株)クレックス、(株)今弘八戸、知床遊覧船

### 柔道部

大鵬薬品(株)、栗原消防署、福島県警、センコー(株)、埼玉土建一般労組

### 準硬式野球部

杜の都信用金庫、宮城県予防医学協会、リコー  
ジャパン(株)、岩手銀行、杜都千愛病院、(株)ユー  
ニック

### 水泳部

日本ペプシコーラ(株)、明光義塾、アシスト多賀  
城(スイミングスクール)

### スキー部

仙台市消防局、東京メトロ(小田急)

### 卓球部

青森銀行、杜の都信金庫

### 軟式野球部

仙台消防局、(株)高速

### バドミントン部

福島トヨタ販売(株)、福島マツダ販売(株)、東洋ワー  
ク(株)

### ライフル射撃部

ケーズデンキ、(株)コメリ、日本通運(株)、航空自  
衛隊

### ラグビー部

(株)東日本旅客鉄道(JR東日本)、(株)きんでん、  
(株)吉田産業

### レスリング部

京セラ(株)、(株)高速

## 新入部員の紹介

### 空手道部

梶原 涼司(酒田南) 総体、団体組手東北大会。  
佐々木穂高(中新田) 宮城県総体団体組手3位。  
堀 悠人(学法福島) 福島県大会組手準優勝。  
岡崎 未夢(釜石) 岩手県総体団体組手優勝。  
阿部 美咲(仙台白百合) 宮城県大会形3位。

### 剣道部

今井 将真(酒田商業)、遠藤 元気(仙台育英)、  
藤嶋 達也(秋田商業)、黒木 翔平(仙台育英)、  
星野 裕太(米沢中央)、藤村 麻衣(盛岡白百合)  
以上インターハイ出場。  
河内 裕樹(白河旭) 国体、照井 春香(小牛田  
農林) 東北高校女子剣道選手権大会、佐藤 一代  
(仙台) 主将として県大会上位入賞。

### 硬式野球部

井上 信志(仙台育英)、藤田 紘央(八戸工大一)、  
三瓶 将大(仙台育英)、日野 聡明(仙台育英)  
以上甲子園出場(ともにベスト16)

### ゴルフ部

佐藤 諒(秋田東) 秋田県アマ優勝

### サッカー部

高橋 太郎(東北学院)、三橋 雄介(塩釜FC)、  
佐々木俊輔(遠野)、石川 純(塩釜FC)、  
高橋 弘樹(名取北)、武井 渉(利府)、  
今野 雄太(古川)、三品 拓真(名取北)、  
藤原 和(盛岡商業)、高橋 佳祐(東北工大)、  
渡邊 庸平(聖和学園)、庄子 亮(利府)、  
小林 聡太(東北学院)、赤間 孝大(仙台育英)、  
小野寺皓平(ベガルタユース)、  
芝 峻 堯(神奈川旭)、皆川 涼(盛岡商業)

### 自転車競技部

大田 口凌(古川工業)、戸田 拓哉(栄北)、  
日向 剛史(八戸工業)、大山 宏仁(能代西)

### 柔道部

吉田 潤樹(田村) インターハイ・全国高校選手  
権ベスト8、東北選手権優勝、

白鳥 弘樹（青森山田）インターハイ・国体、  
菊地 正昂（仙台育英）インターハイ。

#### 準硬式野球部

高橋龍太郎（仙台商業）投手、  
小畑 貴寛（利府）投手、  
菅原将太郎（仙台商業）捕手、  
前田 陣（大崎中央）投手、  
信夫 弘至（東北学院（内野手）、  
小山 祥英（東北学院榴ヶ岡）内野手

#### 水泳部

渡部 聖士（鶴岡工業）インターハイリレー7位、  
鋤崎 雄也（いわき光洋）東北選手権3位

#### スキー部

宮田 順平（山形中央）アルペン

#### 卓球部

井上 顕真（鶴岡東）全国大会3位、  
高梨 真依（谷地）山形県シングル1位

#### 軟式野球部

文屋智博（仙台商業）遊撃手

#### バドミントン部

神 翔平（聖ウルスラ英智）宮城県2位、  
菅野 智也（聖ウルスラ英智）、  
遠藤 彰悟（宮城県工業）宮城県ダブルス2位

#### ボート部

小笠原琢磨（東北）、菅原 丈文（佐沼）

#### ヨット部

北川 翔也（青森工業）、鈴木 梨奈（塩釜）

#### ライフル射撃部

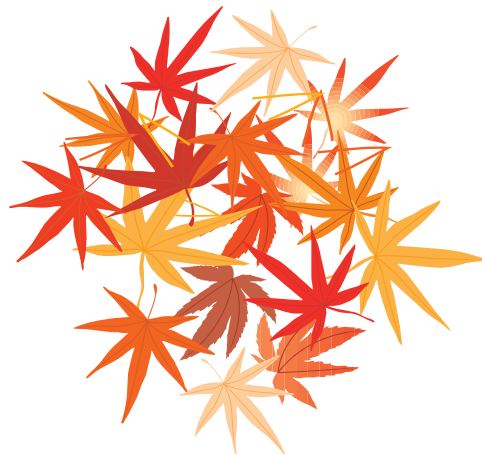
照井 彬（国際学院高校）、村上 健斗（南陽）、  
高橋 玲奈（南陽）

#### ラグビー部

安部 貴広（宮古）、嶋田 涼（宮古）、  
中村 将史（松蔭学園福島）、  
國分 大亮（松蔭学園福島）、  
千葉 良介（仙台工業）、渡部 雄平（秋田中央）

#### レスリング部

高橋真之佑（東北工大）66kg級、  
森田 叡（山形市立商業）74kg級



## 各部期待の選手

### 空手道部

堀籠 善樹（4年）国体強化指定選手。  
猪狩 伸彦（3年）H22年東北新人大会優勝。  
中川 恵（2年）国体予選会組手優勝。  
佐々木徳高（1年）国体強化指定選手

### 剣道部

早坂 公（4年）今年度全日本学生剣道選手権大会ベスト16進出。今後の剣道人生に期待大。

### 硬式野球部

伊藤 祐介（3年）プロ注目の選手。  
蜂谷 文崇（4年）主将としての活躍大。  
三瓶 将大（1年）勝負強い打撃

### ゴルフ部

法井 颯爽（2年）昨年に続き日本アマ出場、  
佐藤 諒（1年）秋田県アマ優勝、  
加賀谷麻美・成美（ともに3年）山口国体出場

### サッカー部

岡崎 友彦（4年）主将としてチームをまとめる。  
大友 健（4年）DFの要として両足の高いキックで試合展開する。  
久保寺聖岳（4年）高いキープ力やテクニックで試合をコントロールする。

### 自転車競技部

會澤 龍（2年）ケイリン2位でタイム的にはトップクラス。インカレ上位入賞期待。

### 柔道部

阿部 芳行（4年）主将でポイントゲッター、-81kg級東北チャンピオン。  
小林 弘典（4年）副主将、100kg超級東北チャンピオン。  
吉田 潤樹、白鳥 弘樹、大友 雄太の一年生トリオは今年度の全日本学生優勝大会の7名に入った。同じ1年の菊地正昂も小柄ながら跳技が巧い。ともに伸びしろあり今後期待。

### 準硬式野球部

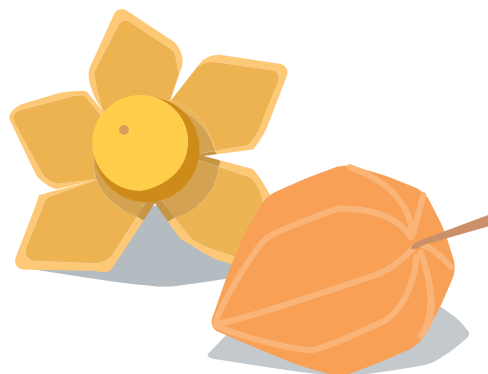
大沼 真澄（3年）外野手・主将。  
筒井 大介（3年）内野手・副主将。  
高橋 巧（2年）内野手。  
水戸優太郎（2年）捕手。  
信夫 弘至（1年）内野手

### 水泳部

葛西 早希（4年）ワールドカップ東京大会17位、インカレ上位進出に期待。

### バドミントン部

佐藤 尚己（4年）春の東北学生大会3冠。  
小関 裕也（3年）東北学生大会2冠。



# 3・11 東日本大震災

三陸沖を震源とした我が国地震観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が発生。栗原市では震度7、仙台市宮城野区などでも震度6強を観測、宮城県内全域で震度5以上の激しい揺れに見舞われた。震災直後に宮城県内で150万戸以上が停電し、断水、ガスの供給も全市町村で停止しライフラインは完全に寸断した。この地震による大津波が三陸沿岸部全域に襲来し、多くの犠牲者を出す未曾有の大惨事となった。

さらに4月7日（木）午後11時3分には余震が発生しマグニチュード7.1を観測、再度の停電、断水等の事態が生じた。

\* 発生時刻～平成23年3月11日（金）14時46分18.1秒

\* 震源～三陸沖（牡鹿半島の東南約130km付近）北緯38度6分、東経142度51分の地点

\* 震源の深さ～約24km（暫定値）

\* 地震の規模～モーメントマグニチュード（M<sub>w</sub>）9.0

\* 最大震度～震度7（宮城県栗原市築館町）

\* 死者数（行方不明者数）

全国15,815人（3,966人）

宮城県9,481人（2,092人）、岩手県4,664人（1,632人）、福島県1,604人（238人）

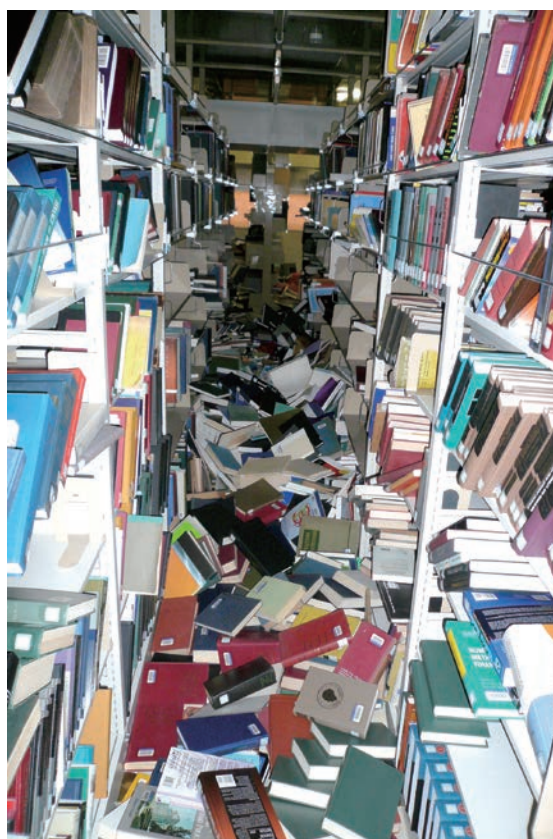
（9月30日現在、警察庁まとめ）



仙台新港前 アウトレット付近



東北学院関上シーサイドハウス



中央図書館40万冊、泉キャンパス図書館20万冊が落冊

## ● 犠牲となられた会員（敬称略）

---

### サッカー部

松村 公司（昭和46年卒） 岩手県大槌町

### 柔道部

高橋慎次郎（昭和31文経卒） 名取市  
金野 和夫（昭和49経商卒） 石巻市  
丸谷 裕一（昭和52経商卒） 女川町  
高橋 清喜（昭和57経経卒） 石巻市  
村上 正直（昭和61法法卒） 陸前高田市

### 準硬式野球部

石川 悟（昭和57経経卒） 名取市

### ボート部

海上 吉広（昭和54経経卒） 石巻市

### ラグビー部

神田 郷文（昭和44経経卒） 女川町

ご冥福をお祈りします。

## ● 競技施設の被害など

---

### 空手道部

体育館の破損

### 硬式野球部

野球場に亀裂あり強風時に記者席が床上浸水し  
用具、ボール等を廃棄した。

### ゴルフ部

震災から2ヶ月あまり部活動を停止した。

### サッカー部

泉キャンパス総合運動場（サッカーグラウンド）  
中央部のひび割れ、及びスタンド擁壁の崩れ。

### 準硬式野球部

笠神球場が津波で水没、投球マシン2台、防  
護ネット3セットが水没。  
グラウンドならしトンボ木製35本流失、ライン  
カー4台水没。  
グラウンド散水用ポンプ室に海水が流入し作動不  
能。  
笠神グラウンド部室床上浸水、笠神入り口から野  
球場まで通路がヘドロや瓦礫で覆われる。

### 水泳部

泉キャンパスプールが地盤沈下により修理が必  
要。  
練習場としているセントラル泉の天井部分が落  
下し1ヶ月間使用できず。

### ボート部

石巻艇庫が被災。  
地震により建物が半壊、特に壁面が亀裂、一部  
落下。所有艇が落下により3艇に被害。  
津波により約1m浸水、ローイングマシンや冷  
蔵庫やTVの家電製品が冠水により使用不能と  
なった。

### ヨット部

津波により閑上シーサイドハウスが全壊。  
レース艇、練習艇、レスキュー船などすべて全  
壊し、宮城県内での活動拠点を失った。

### ライフル射撃部

泉キャンパス内射撃場が被災し、練習再開は6  
月中旬からとなった。



## 第2回TG・チーム対抗ゴルフ大会結果

平成23年8月7日(日) 杜の都ゴルフカントリー倶楽部

競技方法：新ペリア方式

スコアカット：トリプルボギー

最大ハンデ：36.0

参加：81名(男子80・女子1)

### ○チーム対抗

1位	TGクラブA	嶋 容三・佐藤 定男
2位	ゴルフ部B	大友 富雄・高橋 知嗣
3位	サッカー部A	大友 義昭・戸張 宣彦
4位	ラグビー部B	工藤 哲男・志小田正一
5位	応援団A	菊地 克紀・木村 義光
6位	応援団B	福田 友夫・菅原 憲美
7位	竹中TG会	山本 修・大土 健至
8位	三建工業TG会A	平井 徳夫・内田 博久
9位	団塊の会A	吉田 一美・佐々木 進
10位	ラグビー部B	末永 隆逸・清水 正哉
11位	硬式野球部A	伊藤 昌俊・佐藤 環
12位	竹中TG会B	篠田 浩司・野村 篤
13位	準硬式野球部	澁谷 隆・成田 義則
14位	アメフト部A	芦名 文伸・田代 行英
15位	仙台同窓会A	壹岐 和人・中野 正志



### ○個人

1位	中村 彰	ユアテックTG会
2位	大友 富雄	ゴルフ部B
3位	壹岐 和人	仙台同窓会C
4位	佐藤 定男	TGクラブA
5位	福田 友夫	応援団B
6位	嶋 容三	TGクラブA
7位	桜井 俊明	建設TG会
8位	工藤 哲男	ラグビー部A
9位	大友 義昭	サッカー部B
10位	大土 健至	竹中TG会

### ○ベストグロス

大友 富雄 69 (36・33)



ゴルフ表彰式 会長あいさつ



優勝ペアに自転車

## TGスポーツOB連合会 オリジナルキャップのご紹介

このたび、TGスポーツOB連合会ではオリジナルキャップを作成しました。色はホワイトとブルーの2色となります。お問い合わせは学生課 中野まで (022-264-6474)



**2,000円で販売中!**

### 各部のキャラクターを作りますか

いま数部でオリジナルのキャラクターを作成しTシャツ等にプリントして活用しております。

宮城の県獣であります「鹿」をキャラクターとしておりますが、ご希望の部(団体)がありましたらお申し出ください。

デザインは熊谷清デザイン事務所をお願いしていますが、肝心のデザイン料は3万円以内とし、交渉にも応じるとのことでありました。現役部員、OBにとっての「わが部のキャラクター」としていかがでしょうか。



柔道部



スキー部

# 平成23年度T GスポーツOB連合会総会 議事録

1. 日時：平成23年2月18日（金）18：00～19：00

2. 場所：仙台サンプラザ

3. 出席：36部／120名 <成立>

合気道部、アメリカンフットボール部、空手道部、弓道部、剣道部、硬式野球部、ゴルフ部、サイクリング部、サッカー部、山岳部、自転車競技部、柔道部、準硬式野球部、水泳部、スキー部、スキューバダイビング部、相撲部、体操競技部、卓球部、軟式野球部、ハンドボール部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、フェンシング部、ボート部、ボクシング部、ボディビル部、ヨット部、ライフル射撃部、ラグビー部、陸上競技部、レスリング部、ワンダーフォーゲル部、応援団、体育会常任幹事会。

（欠席～10部：航空部、硬式庭球部、少林寺拳法部、自動車部、スケート部、ソフトテニス部、馬術部、ボウリング部、洋弓部、ラクロス部）

4. 議事の経過及び結果

事務局より総会出席部が現時点で過半数の出席との報告のあと、会則11条に基づき本間良一会長が議長となり議事に入った。

議事録署名人に佐藤順氏（サッカー部OB）と千葉幹雄氏（自転車競技部OB）の二氏を選出した。

## 【報告事項】

以下の各事項について山田純事務局長から資料をもとに報告された。

(1) 第1回T G・チーム対抗ゴルフ大会の開催（資料1）

(2) 会報「躍動」第2号の発行  
平成22年10月1日発行

(3) 東北学院創立125周年記念事業募金協賛団体（資料2）

\*募集期間 平成21年4月1日～平成26年3月31日（5年間）

\*募金目的 ①大学キャンパス整備事業 ②奨学基金

\*目標金額 10億円

\*T GスポーツOB連合会として

・100万円を寄付金総額の目標とする。

・募金期間は平成23.24.25年の3年間とする。

・一団体が年1万円の支出とし3年間、計3万円の金額とする。

・3年間分を別通帳にプールし、平成25年に一括で納める。

（※後日、各OB会に対して振込依頼先を文書にて通知する。）

(4) 創部祝賀会等の開催

1) アメリカンフットボール部創部35周年記念試合&記念式典

2) 曾根孝悦氏剣道八段昇段祝賀会

3) スキー部創部50周年記念祝賀会

(5) 新OB会長（参与）

ヨット部OB会の新会長に松澤泰道氏（S42経卒）が就いた。

【審議事項】

1号議案 平成22年度事業報告（資料3）

資料をもとに事務局から説明、報告がされた。

2号議案 平成22年度収支決算報告（資料4）

資料をもとに事務局から説明、報告がされた。

監査報告

高橋正博監事（合気道部OB）から監査結果の報告がされた。 <承認>

3号議案 平成23年度事業計画案（資料5）

資料をもとに事務局から説明された。 <承認>

4号議案 平成23年度収支予算案（資料6）

資料をもとに事務局から説明された。 <承認>

5号議案 会則の改正案（資料7）

対比の資料をもとに事務局から説明された。 <承認>

6号議案 平成22年度勲功章表彰（資料8）

資料をもとに事務局から説明された。  
427号から445号まで1団体、18個人を表彰する。 <承認>

7号議案 役員改選案（資料9）

理事会案をもとに事務局から新役員が提案された。 <承認>

以上により本総会の議事を終了し、本間会長は閉会を宣言した。

以 上

# 平成23年度T GスポーツOB联合会交流会

\*平成22年2月18日(水)19:00

\*仙台サンプラザ・クリスタルルーム

## ■勲功章贈呈式

第427号 剣道部

第46回全日本基督教関係大学剣道優勝大会団体優勝

第428号 牧野 将太(自転車競技部部・経済学部4年)

第51回全日本学生選手権大会自転車競技ケイリン準優勝

第429号 山田 貴洋(準硬式野球部・法学部4年)

第62回全日本準硬式野球選手権大会全日本選抜メンバー(投手)

第430号 佐々木桂二(バスケットボール部・教養学部教員)

第14回全日本男子学生選抜バスケットボール大会東北選抜チーム準優勝監督

第431号 中里 大(バスケットボール部・経済学部4年)

第432号 鈴木 航(バスケットボール部・経済学部4年)

第433号 小川 大智(バスケットボール部・経済学部4年)

第434号 佐藤 光(バスケットボール部・経済学部4年)

第435号 加藤 聖基(バスケットボール部・経済学部2年)

第436号 遠藤 悠亮(バスケットボール部・法学部2年)

第437号 菅野 翔太(バスケットボール部・経済学部1年)

第438号 伊保内謙太(バスケットボール部・教養学部2年)

以上、第14回全日本男子学生選抜バスケットボール大会東北選抜チーム準優勝

第439号 田端 秀規(サッカー部OB・平成5年経済学部卒)

第65回国体体育大会サッカー競技成年男子宮城県チーム(SONY仙台FC)優勝監督

第440号 花渕 修平(サッカー部OB・平成13年教養学部卒)

第441号 村田 純平(サッカー部OB・平成15年法学部卒)

第442号 門間 匡史(サッカー部OB・平成18年法学部卒)

第443号 三浦 直貴(サッカー部・経済学部4年)

以上、第65回国体サッカー競技成年男子宮城県チーム(SONY仙台FC)優勝

第444号 曾根 孝悦(剣道部OB・昭和46年経済学部卒)

長年にわたり本学剣道部員を指導し、

かつ本学初の剣道八段に昇段

第445号 根本 仁志(合気道部OB・昭和47年経済学部卒)

長年にわたり本学合気道部員を指導し、

かつ本学初の合気道七段に昇段



平河内理事長あいさつ



勲功賞表彰



勲功賞受章者一同



剣道部曾根師範から受賞者代表の挨拶

## ■交流会

主催挨拶	本間 良一	T GスポーツOB联合会会長
祝 辞	平河内健治	学校法人東北学院理事長
	星宮 望	東北学院院長・大学長・同窓会長
乾 杯	柴田 良孝	東北学院大学副学長
近況報告		
校歌斉唱	応援団OB	
閉会挨拶	仲嶋 一雄	T GスポーツOB联合会副会長

# T G スポーツ O B 連 合 会 会 則

## (名称・組織)

第1条 本会は、T G スポーツ O B 連 合 会 と 称 し、東 北 学 院 大 学 体 育 会 各 部 O B、並 び に 応 援 団 O B、及 び 理 事 会 で 推 薦 し た 者 を 以 っ て 組 織 す る。

## (目的)

第2条 本会は東北学院スポーツの振興と発展のため、物心両面の援助を図るとともに、会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与することを以って目的とする。

## (事務局)

第3条 本会の事務局を東北学院大学内に置く。

## (事業)

第4条 本会は第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1. 優秀団体、優秀選手の表彰
2. 指導者講習会
3. 体育会所属学生への指導、援助
4. 会員名簿の管理
5. 交流会
6. その他、会の運営に必要な事業

## (会員)

第5条 本会の会員を下記二種に区分する。

1. 正会員
2. 特別会員

## (役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副 会 長 3名
3. 理 事 長 1名
4. 常 任 理 事 15名
5. 理 事 各 部 よ り 2 名、並 び に 会 長 委 嘱 の 者 若 干 名
6. 事 務 局 長 1 名
7. 監 事 2 名
8. 顧 問 若 干 名
9. 名 誉 会 長、相 談 役、参 与 を 置 く こ と が で き る。

## (選任)

第7条 役員を選任は次による。

1. 会長並びに理事長は理事会において推薦され総会で承認を得る。
2. 副会長は会長が指名する。
3. 理事は各部OB会から選出された者と会長委嘱の者とし、理事会を構成する。理事会は理事長、常任理事をそれぞれ推薦、選出し、総会の承認を得る。
4. 事務局長は理事会において選出する。
5. 監事は総会において会員の中から選出する。
6. 顧問は各OB会等から推薦された者、及び本会の発展に特に功労があった者を会長が委嘱する。
7. 名誉会長、相談役、及び参与は会長が委嘱し、総会で承認を得る。

## (役員の仕事)

- 第8条
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
  2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
  3. 理事長は事業の実務の執行を指示し管理する。

4. 常任理事、及び理事は具体的な実務の執行を行なう。
5. 事務局長は本会の円滑な運営のため事務全般を担当する。
6. 監事は定時総会において監査の結果を報告する。
7. 顧問は重要事項につき会長の諮問に応じる。

(任期)

第9条 役員任期は2ケ年とする。但し再任を妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会を置く。

1. 総会
2. 常任理事会
3. 理事会
4. 専門委員会

第11条 総会は年一回開催し、会長がこれを招集し議長となる。臨時総会は必要ある時に、会長がこれを招集する。

第12条 総会は本会の最高の意思決定事項とし、次の事項を決議する。

1. 事業報告及び収支決算
2. 事業計画及び収支予算
3. その他重要な事項

第13条 常任理事会、理事会及び専門委員会は理事長が必要に応じて召集する。

第14条 総会、常任理事会、理事会の議事は、出席者の過半数を以って決定し、可否同数の場合は会長の決するところによる。

(会計)

第15条 本会の会費は、体育会各部OB会、並びに応援団OB会より年会費を徴収する。その他、助成金、寄付金を以って会の運営費に充てる。

第16条 本会の会計については、事務局で管理する。

第17条 本会の事業、会計年度は1月1日に始まり同年12月31日に終わるものとする。

付 則

1. 会則

本会則は昭和48年（1973）11月22日から施行する（会名称は春秋会）

平成2年（1990）2月6日、会則の一部改正（総会）

平成6年（1994）10月28日、会則一部改正（臨時総会）

会名称変更。春秋会からT GスポーツOB連合会に

平成14年（2002）2月12日、会則の一部改正（総会）

副会長枠数、役員選任方法の一部改正

平成18年（2006）2月16日、会則の一部改正（総会）

幹事名称を理事名称に変更。専門委員会の設置、会計年度の変更

平成19年（2007）2月15日、会則の一部改正（総会）

終身会費の廃止

平成20年（2008）2月14日、会則の一部改正（総会）

第2条、スポーツ推薦等と、の文言を削除

2. 年会費は別に定める。
3. 表彰規定は別に定める。
4. 専門委員会規定は別に定める。
5. 慶弔規程は別に定める。

# T G スポーツ O B 連合会 役員 〈平成23・24年度〉

顧問 平河内健治 東北学院理事長  
星宮 望 東北学院長・大学長

相談役 辻 秀人 学生部長 (文学部) 工藤 哲男 元本会副会長 (2代監督会長)  
原田 善教 体育会長 (経済学部) 佐藤 正 前本会副会長 (3代監督会長)  
刈込アキラ・ロング 体育会副会長 (文学部) 伊藤 哲夫 前本会副会長  
仁昌寺正一 体育会副会長 (経済学部) 高橋 嘉男 元本会事務局長  
根市 一志 体育会副会長 (経営学部) 石井 勝雄 学生課長  
澤野 和博 体育会副会長 (法学部) 海老田保夫 校友課長  
佐々木桂二 体育会副会長 (教養学部)

参 与 加盟団体各OB会会長

役 職	氏 名	卒年・学科	所 属 部	備 考
会 長	本間 良一	S33文経	サッカー部	宮城県サッカー協会
副 会 長 (3名)	仲嶋 一雄	S41文経	ハンドボール部	ハンドボール部OB会長 (OB会長枠)
	森 俊博	S48経商	空手道部	モリプレゼンス(株) (会長指名枠)
	栗野 眞	S52経経	ライフル射撃部	監督会長 (監督会長枠)
理 事 長	高橋富士男	S45法法	柔道部	柔道部副部長、師範
常任理事 (15名)  (*~新)	鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	陸上競技部OB会長
	熊谷 聖	S41文経	弓道部	弓道部OB会長
	増田 量吉	S42文経	ボート部	ボート部前監督
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	サッカー部総監督
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	ワンダーフォーゲル部OB会幹事
	* 菊地 正	S46経経	バドミントン部	バドミントン部監督
	武田三子雄	S47経経	剣道部	剣道部副部長
	* 佐藤今朝善	S49法法	ボクシング部	ボクシング部監督
	伏見 善成	S50経商	準硬式野球部	準硬式野球部監督、監督会副会長
	中野 信朗	S50経経	スキー部	スキー部副部長 (※事務局兼務)
	千葉 幹雄	S53経経	自転車競技部	自転車競技部OB会副会長
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	硬式野球部OB会幹事長
	大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	ゴルフ部監督
* 高橋 公晴	S56経経	アメリカンフットボール部	アメフト部OB会副会長	
* 増田 孝夫	S63文史	卓球部	卓球部監督	
理 事	加盟団体より各2名			
監 事 (*~新)	* 八島 康治	S52経経	準硬式野球部	
	* 松本 宏一	S56経経	スキー部	
事務局長	山田 純	H06経商	ラグビー部	ラグビー部副部長
事 務 局	石田 伸彦	H06教人	水泳部	水泳部副部長
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	ヨット部コーチ

\*~新任 (H23.2.18総会承認)

〈事務局〉 〒980-8511 青葉区土樋1-3-1 東北学院大学学生課内 TEL 022-264-6474





TGスポーツOB連合会  
<http://www.tgaa.jp/>